

# まんたら

七号

五年二月



肝炎と言ひて晩酌をやめた。GOT、GOPが正常になつてそろそろ一年になる。そこで晩酌をやめるコツをひとつ。又飯の膳に向つたらういそいで盗人喰い、オカスを一〇ほりばることだ。聖いだの、塩芽のいだとホヰキながら飯の一口でも口にしたらういめたもの。まあ、今夜はやめとくわ。と云ふこと。請合だ。反対に考をそろへて言ひたじま。あーす。と云ふこと。やつたらもうだめ。悪い。般若湯が想ひて。もとの木阿弥、まあ、一杯だけゴセヤイ。となる。ホントカイヤつ。と笑ひながらでも、いからう、いちどやつてみた。う。ソモソ、お釈迦さんは酒を禁じているのだ。でも坊主だつて酒は飲みた。いよ。昔の僕らに、酒サカサ神油あがらぬ神はなし。なんぞ飲みヌケ坊主が尻リクツこねて発明したのが般若湯。この湯若みの中は酒でありません。お湯をアリマスと。タマクラカシテいるつもりなんだよ。佛さん。理くつと膏藥はどうにでも。何処でもつきます。金ッタク。まあ、それはそれ。酒休二の制はせむ々々お守りも。後場の船越弁天さんも仰つたよ。ついでだからひと言。佛典には、酒のみと酒の中に水を混ぜて売ったヤツは地獄におちると書いがある。その地獄は鬼に金テツでつをこじ開けられ煮えたぎった銅液を流して。まいてドの々の臓腑を肛門から出すまで可愛いがられるんだとオノ。スサマジイこと。です。分ちやいるけどやめられぬ。殿サマ、法然上人は酒のみ必ずしも罪悪と言つてない。エッ。ホントつ、なう今夜ちよつとひとくち。コラッ。調子にノルナ。